

Support 21 

Vol.50 2013.3

Newsletter

「感動という報酬」に支えられ

社会福祉法人さぽうと21 理事長 吹浦 忠正

数十万もの人出での中での偶然の再会

昨年末、33年間、認定NPO法人難民を助ける会(AAR)や社会福祉法人さぽうと21に関わってきて本当によかった、ボランティアとして活動してもこんなに大きな「収入」をいただけるんだという感動を、なんと連続4回も体験しました。

まず、10月1日所用があり、サンフランシスコを訪れました。ちょうどブルーエンジェルス(米海軍所属アクロバット飛行隊)の合同ショーの日に当たり、見物していました。50万とも70万ともいうもの凄い人出でした。上空を見上げては見事な宙返りやマースゲームのような航空ショーに感心していると、突然、「センセイイ!」と叫ぶ声とともに「中年の美女」に抱きつかれました。

ブ・ティ・キム・ロアンさん、かつて難民を助ける会が4人姉弟の就学を支援した一家の一人です。23年前に東京・山手通りのカトリック教会で行われた結婚式で、美しい花嫁姿を拝見して以来、奇跡的な再会です。

ロアンさんは昭和女子大で建築を学び、卒業後、比較的早く在米ベトナム難民と結婚し、今は、カリフォルニア州サンノゼで経済分析家として活躍、ご主人は不動産鑑定士をしているのです。

2人のお嬢さんと1人の甥を育てており、みんなでそろって第39埠頭にあるオシャレでとても美味しいイタリア料理店でご馳走になってしまいました。どうしても支払わせてくれませんでした。ロアンさんのお姉さんは聖心女子大の英文科を卒業、弟のイコ君は杏林大学医学部を卒業、下の妹

のスアンさんは上智大学で文学博士号を授与されたという、みなさんがなかなか賢く努力家なのです。そろってAARの難民奨学生として夏冬の合宿など、さまざまな機会にご一緒した仲です。

カンボジアに帰国して発展のために大活躍する二人

帰国してすぐ、今度はプノンペンのマルハン銀行頭取のメヤス・アスナさんからメールをいただきました。カンボジアからの定住難民として日本で暮らし、体育大学に進んだハンドボールの全日本級の選手だった人です。メールには、国王の御名御璽のある「カンボジア財務省の副大臣に任ずる」との、辞令がPDFで添付されていました。

アスナさんのご尊父メヤス・チャン・リープ氏はカンボジア和平に尽力され後にカンボジアの国会議員になられた方ですが、激しい政局の渦中に、身の潔白を証明しようとして、議事堂内で自決された方です。AARやさぽうと21の理事をしておられたこともあります。突然の訃報に接し、圧倒される思いでした。直ちに葬儀に駆けつけ、56歳という年齢の数だけのお坊さんが読経するといういささかにぎやかなカンボジアの葬儀でしたが、私はただただ涙を流して、合掌するほかありませんでした。

今年の2月16日、アスナさんは同銀行がラオスのヴィエンチャンでも営業を開始することになり、そちらの責任者にも任命され、さぽうと21からは、別件で居合わせた高橋敬子事務局長(AAR常任理事)が、AARからは岡山典靖ラオス駐在代表とともに開所式に出席し、日本からの大使や韓裕マルハン社長、そしてアスナさんに歓迎されました。

「支援への恩返しができるようになりました」

そのカンボジアで、兄とともに建設会社「S.O.M. Corporation, Ltd.」を起業し、「会社が軌道にのって、ようやくご恩返しできるようになりました。ぜひ今困っている人たちのために、特に教育支援として活用してほしい」と、当時受けた奨学金と同額の寄付を申し出てくださったのがソム・モノラック君です。「自分たちは兄弟姉妹が多く、支援がなければとても立ちゆきま

吹浦忠正理事長

